

医人伝

「失敗をいっぱいしてください」

精神疾患で数年に及ぶ入院を経て退院する人に、そんな言葉をよくかける。保護された入院生活が長引くと、地域社会に戻ることは、時として不安や恐怖と

の闘いになる。それでも、現実から逃げてほしくない。「失敗」から多くを学び、人生を豊かにしてほしいと願う。

精神保健福祉士は病院や社会福祉施設、行政などで活動する。精神を患う人がどんな症状のために生きづ

らいのかを理解し、福祉制度を利用したり、法的権利を行使したりして生活を支援する。地域に溶け込み、どつすれば社会とつながれるのか、関係機関と連携し、当事者と一緒になって模索する。

「本人や家族が求めているのは何か」を常に意識する。二十数年前、「就職して自立した生活をしたい」という男性とその家族の願いに、適切な職場を確保するため、事業者を口説いた。一人で住むための物件も探した。

仕事や生活上のトラブルが起きれば、すぐに駆け付け、本人と一緒に対処の方を考えた。やがて、地域の人々と信頼のつながりが生まれ、本人の能力を生か

京ヶ峰岡田病院（愛知県幸田町）

精神保健福祉士 ^{たけ なか} 竹中 ^{ひで ひこ} 秀彦さん(60)



精神を患う人たちの生活をきめ細かく支援する竹中秀彦さん

せる環境が徐々に整った。それが一九九三年、愛知県岡崎市で県内初の精神障害者グループホームの開設につながった。

静岡市出身。少年期から非行問題に関心があった。高校生の時には、近くの母子寮で、ボランティアで中

仕事を通して見えてきたのは、人間関係を築くのが苦手な人たちが直面する社会の壁。普通に生活している人たちの無理解が、彼らを追い詰める。「そういう問題を家族に押し付けてきたのが日本の悪い文化」。壁を少しずつ取り除いていけば、すべての人が暮らしやすい社会に変えられると信じている。

「私たちの仕事は、究極的にはまちづくり。当事者たちは、その重要な手がかりを教えてくれる。彼らから謙虚に学び、誠意を持って対応することが大切だと思います」 (林勝)

社会の壁 取り除きたい